

# 緊急性の高い生徒に無理なく生活に即した活用を進める取り組み

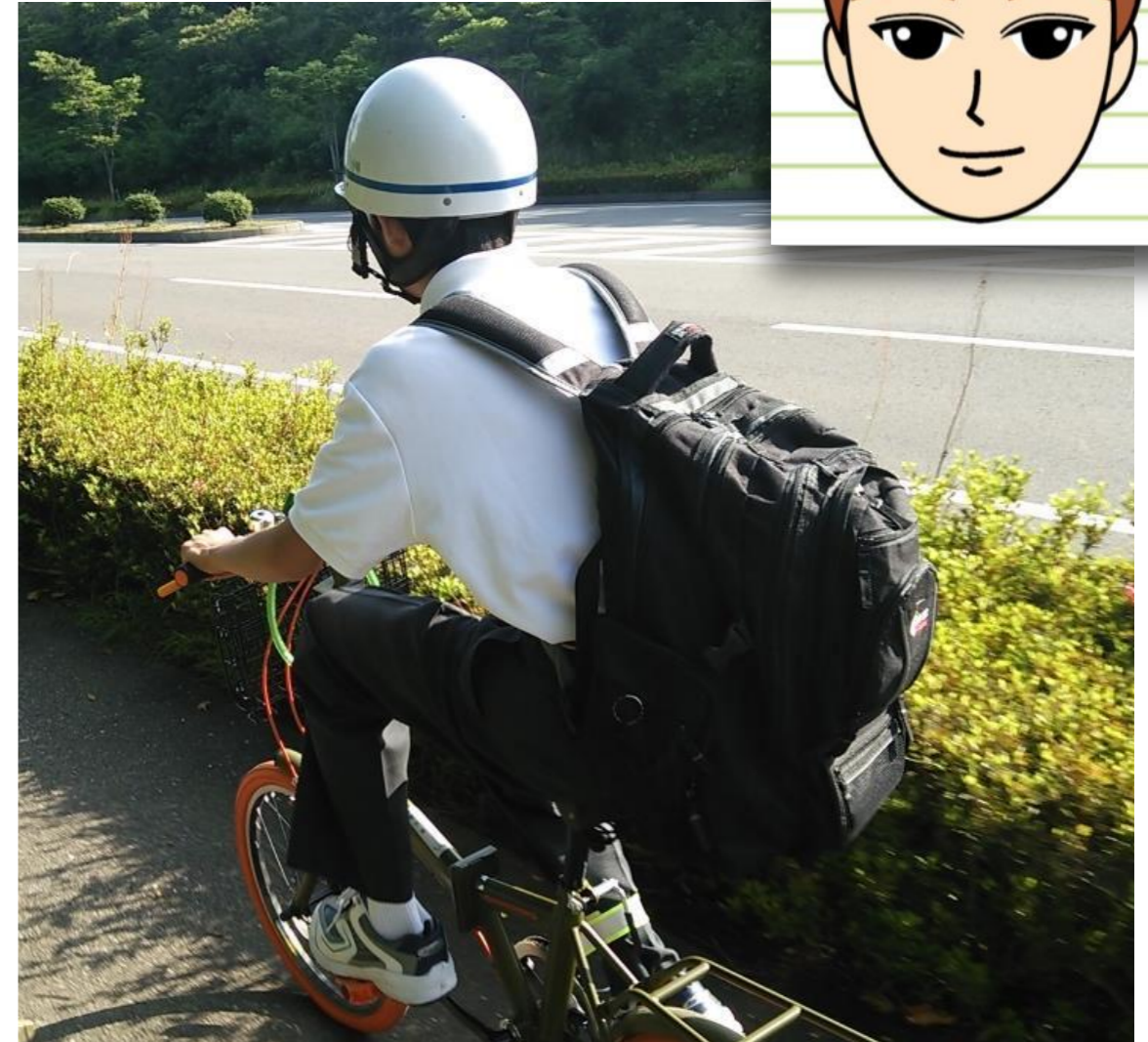


大分県立大分支援学校 岡本 崇

# 昨年度のJくん実践のまとめ



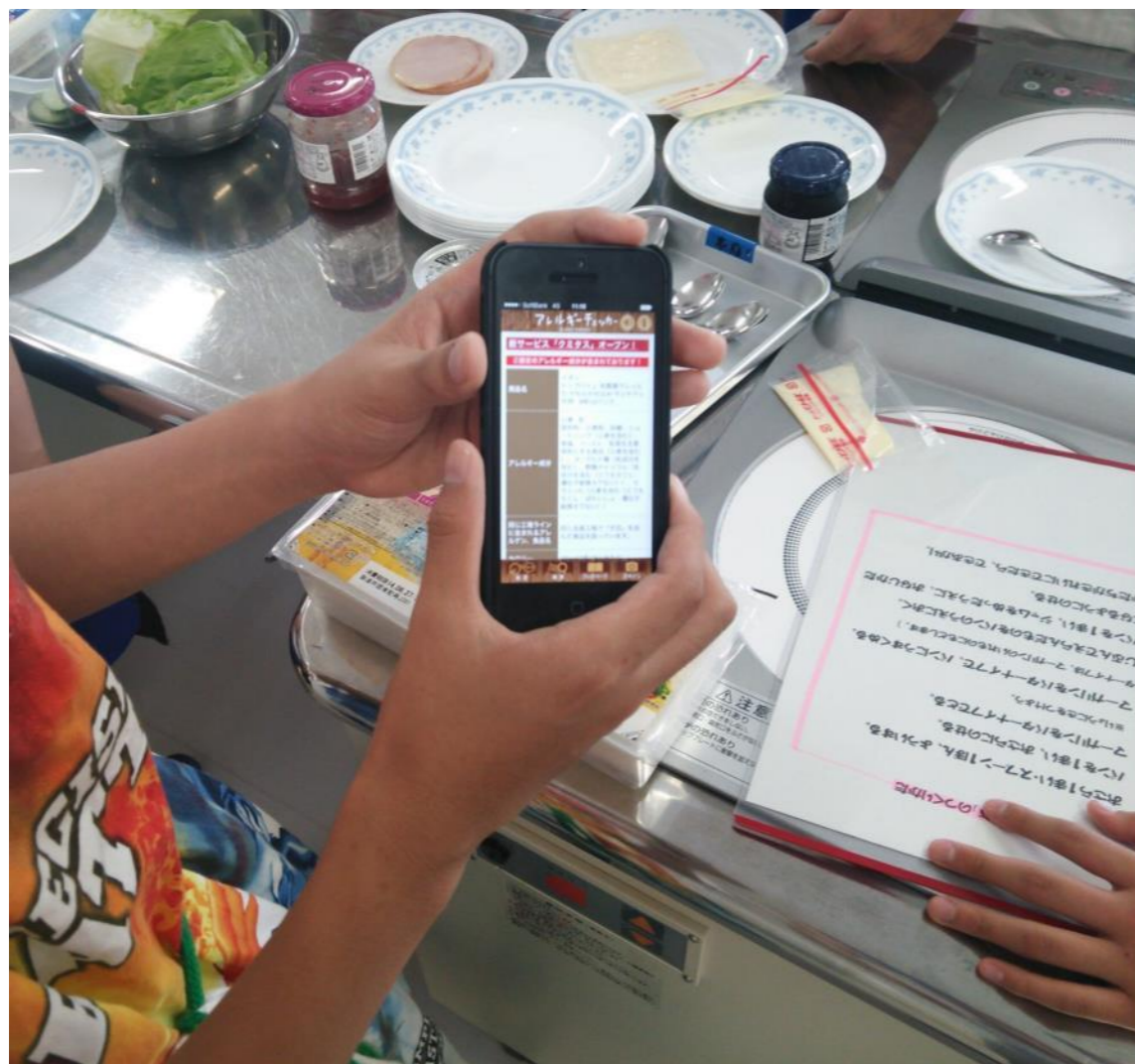
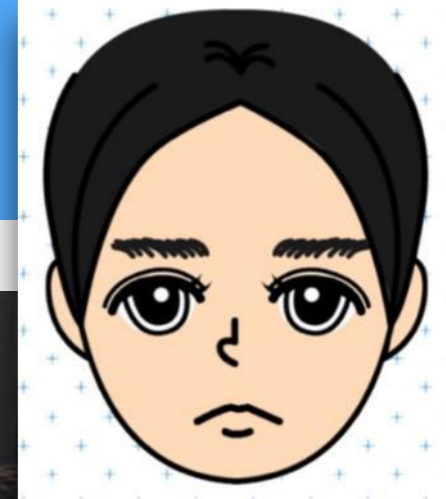
アレルギーへの対応



自力移動の確立

担任が変わった現在も自分で管理できている  
(しかも現担任はICTに詳しくない)

# 今年度のAくんのダイジェスト



アレルギーへの対応



自力移動の確立

状況は似ているが全く異なる活用

# 昨年度のJくん実践の特徴

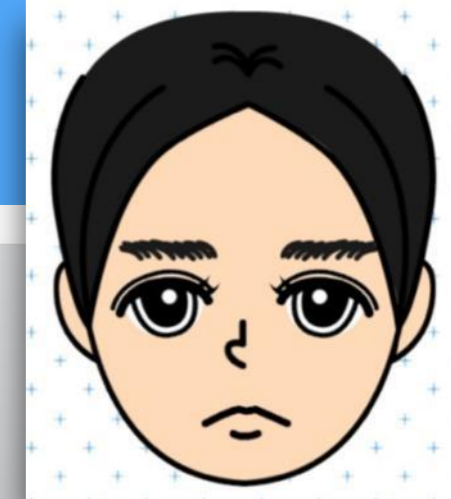


多くのアプリの使い分け、管理が必須→

- ・本人のICTのリテラシーの高さに依存
- ・保護者の多大な理解・協力
- ・卒業まで時間をかけて指導



# 今年度のAくんのダイジェスト



アレルギーへの対応

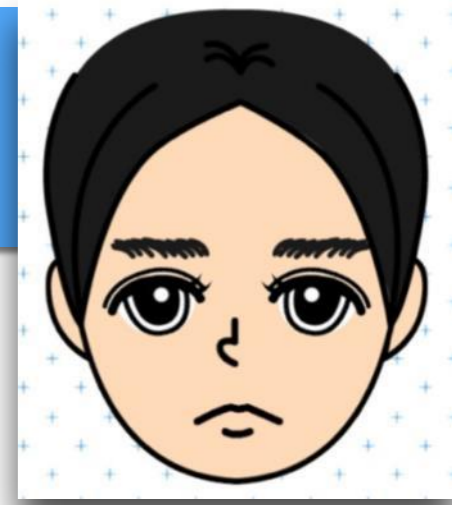


自力移動の確立



- ・ICTは好きだが、よく知らない
- ・保護者の協力は難しい(体調面)
- ・「今すぐ確実に！」の必要性

# Aくんの実態

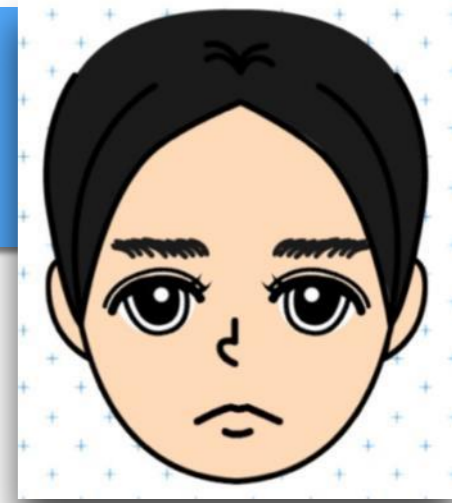


- 中学部1年生 男子 知的障がい
- 家庭での生活リズムが確立できておらず、  
体調不良で頻繁に欠席する
- 教室内でできるようになっていることでも、  
実際の場面で活用することは難しい
- 乳製品の食物アレルギーがあるが、意識は  
できていない

## ☆家庭での生活リズムが確立できておらず、 体調不良で頻繁に欠席する背景

- 小6までの前籍校では不登校で、ほとんど登校できていない(友人関係に起因)
- 母親と2人暮らし。母親が半日の通院を週3回行っており、1人で過ごすことが多い
- スクールバスに乗り遅れたことを主要因に、ささいな原因(朝起きれないなど)で欠席する

# Aくんの実態



- 中学部1年生 男子 知的障がい
- 家庭での生活リズムが確立できておらず、  
体調不良で頻繁に欠席する
- 教室内でできるようになっていることでも、  
実際の場面で活用することは難しい
- 乳製品の食物アレルギーがあるが、意識は  
できていない



☆教室内でできるようになっていても、  
実際の場面で活用することは難しい背景

- 小6までの前籍校では不登校で、ほとんど登校できていない(友人関係に起因)
- 自力での移動は自宅100m圏内で5分程度まで(「外はこわい」と言う)
- 公共交通機関の利用、買い物など、社会生活上必要な力が身につけていない(実体験の不足)

緊急性の高い順に、なるべく早く  
身につけ、定着する必要性



買い物・自力移動

自律的な生活の確立

これができれば  
生きていける

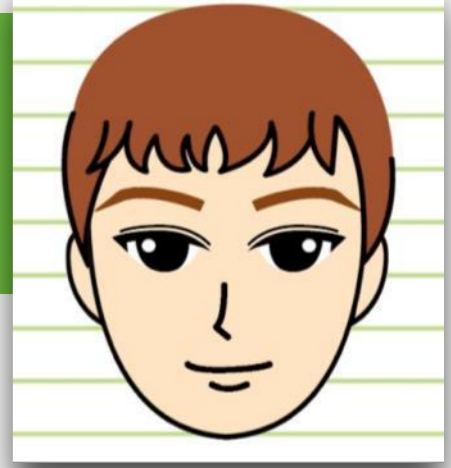


# まずは、外に出よう。



GoogleMapsで  
事前にシミュレーシ  
ョン、実際に確認し  
ながら歩く

# 使用機器の選定

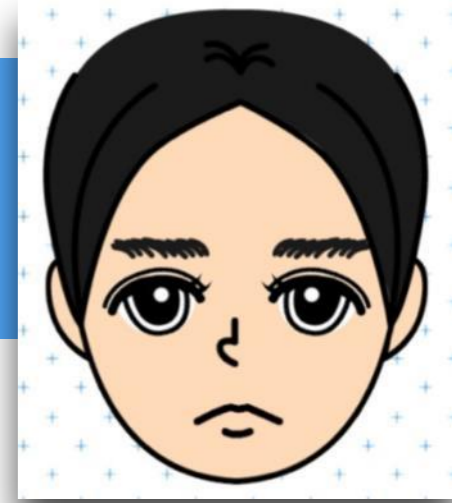


- Jくんの場合
- ・持ち歩きを苦にしない
  - ・画面上の作業スペース確保
  - ・様々な検索などでも使用
  - ・PCの扱いに慣れている



iPad

# 使用機器の選定



## Aくんの場合

- ・「未経験のこと」への心理的なハードル
- ・より持ち歩きのハードルを低く
- ・緊急連絡ツールとして
- ・母親はすぐにでも買い与えたい



iPhone

# 「自分で行う部分」と「教師が行う部分」の切り分け →将来的な見通しから決定

- 「自分で行う」部分は自分で
- ・実際の買い物、移動などの行動
  - ・メモする、その活用

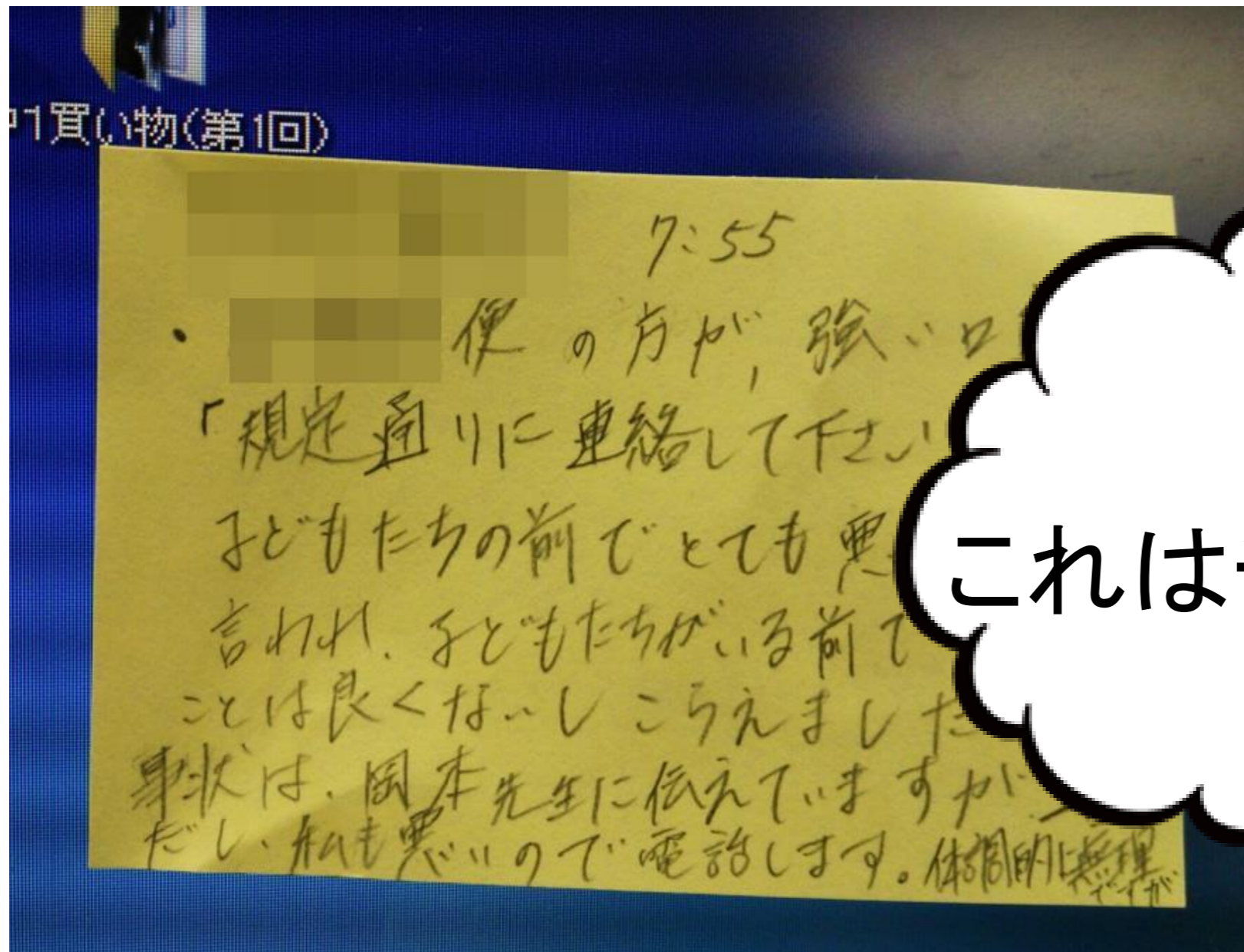


- 「システムの活用」部分は教師が
- ・電子マニュアルの活用
  - ・Web上の情報の活用



# 自力移動の手段の確保

きっかけは保護者からの伝言「スクールバスをやめたい」



これはチャンスでは？

学習の必然性が生まれる

# 実際の体験とシミュレーションの 使い分け



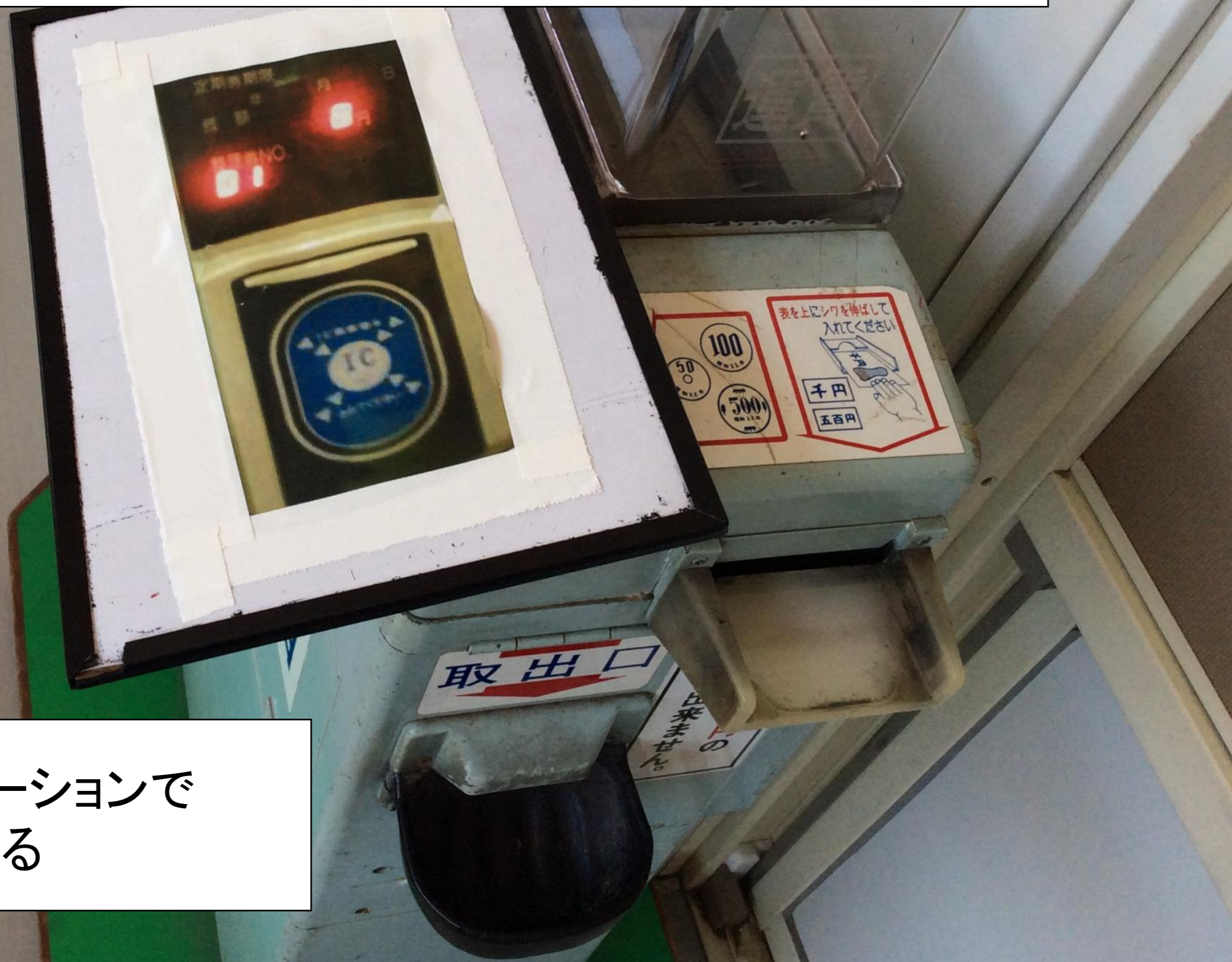
- ・心理的ハードルを下げる
- ・繰り返し行える
- ・本物にはかなわない



- ・直接体験できる
- ・失敗もあり得る
- ・失敗から学ぶこともある



# ① 移動手段の確保： バスの乗り方を身につける



まずはシミュレーションで  
ハードルを下げる



動画を自ら撮影

# そして迎えた初日…



立ち位置が悪く、ドアが開かない

気を取り直して2日目。

まさかの雨。そして遅延

これはチャンスでは？





自分で撮った写真にふきだしをつけて  
マニュアル化



バスを降りる  
場所を  
覚える例





自分で撮った写真にふきだしをつけて  
マニュアル化

お金を見る

動画のスクリーンショットを撮って、気になる  
ことをメモする例



## ② 買い物の定着：一人で欲しいものを買えるように







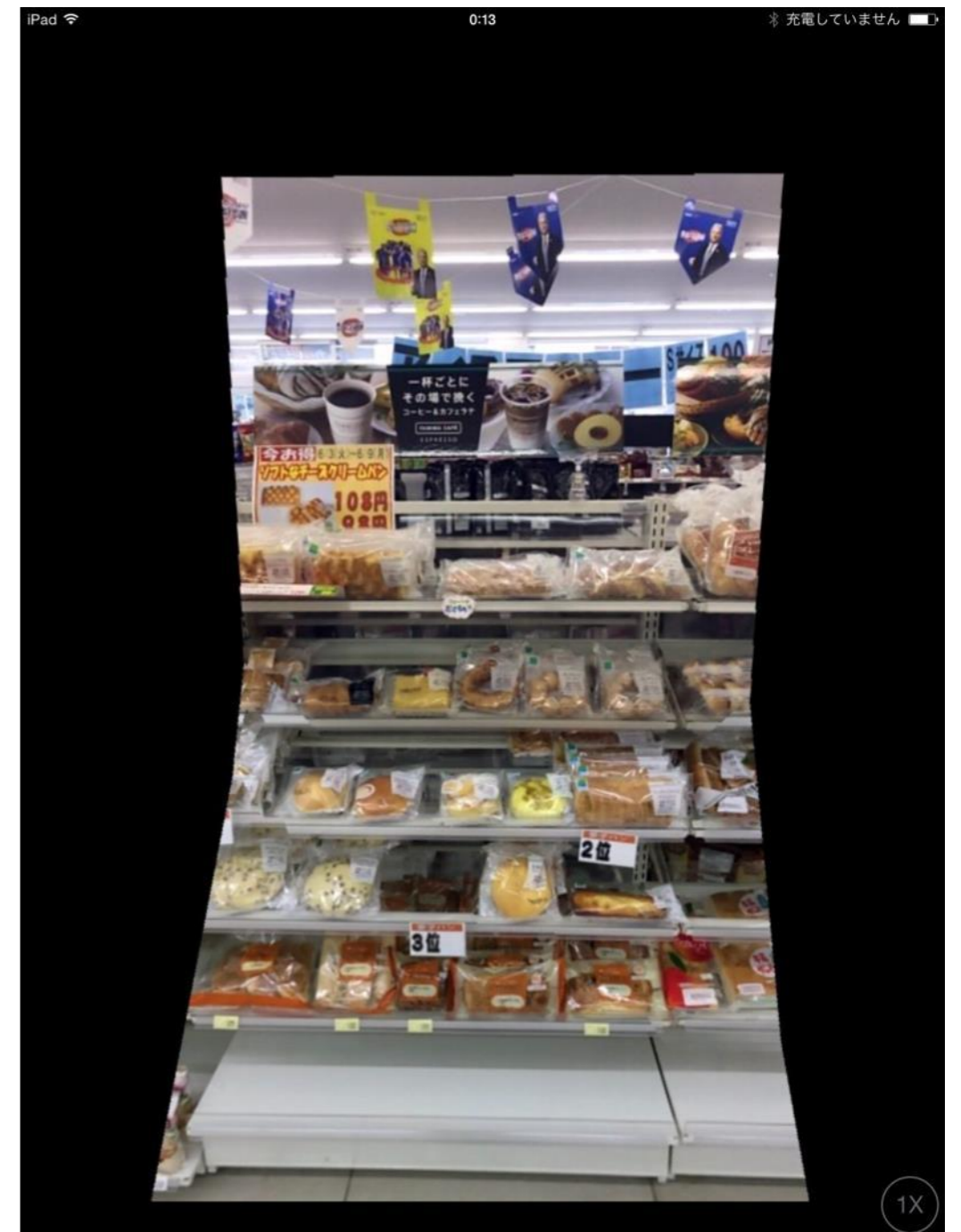
この範囲しか見ていない

# Google mapsのように全体を見渡せる アプリで練習



Photo synth

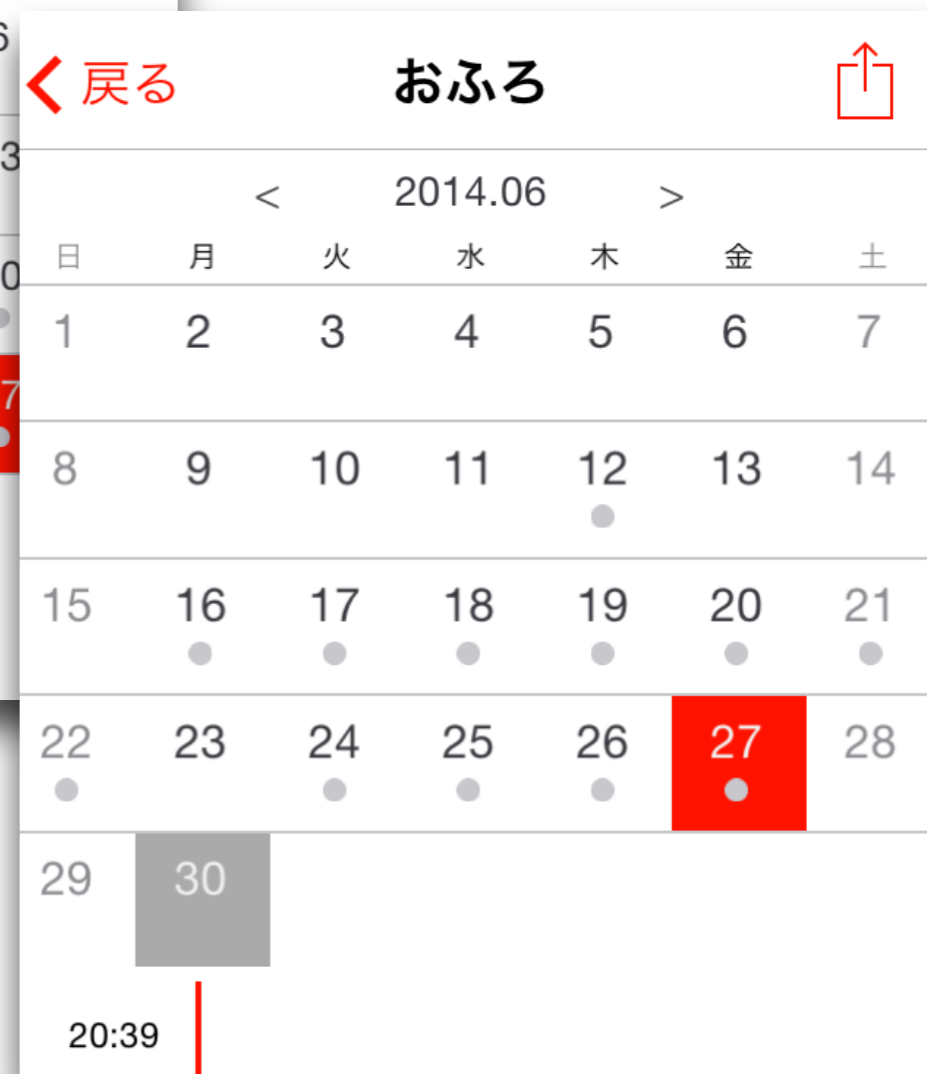
iPhone内にコンビニの棚  
を再現



# ③生活習慣の確立：時間の管理と意識づけ



Time Stamp+



タップするだけでログを取れる  
(かんたん、活動の開始を意識)

# 一目で行動の時間がわかり、一覧性がよい

◀ 戻る		朝おきる					↑
		<	2014.06			>	
日	月	火	水	木	金	土	
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30						

11:43

◀ 戻る		朝おきる					↑
		<	2014.06			>	
日	月	火	水	木	金	土	
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30						

6:37

就寝時刻と起床時刻(体調)の因果関係を理解

# 忘れない工夫(自分なりの仕方)

「ログを取り忘れないようにリマインダー」  
→意味がない…(ヤラセ?)



いい方法を考えてみて

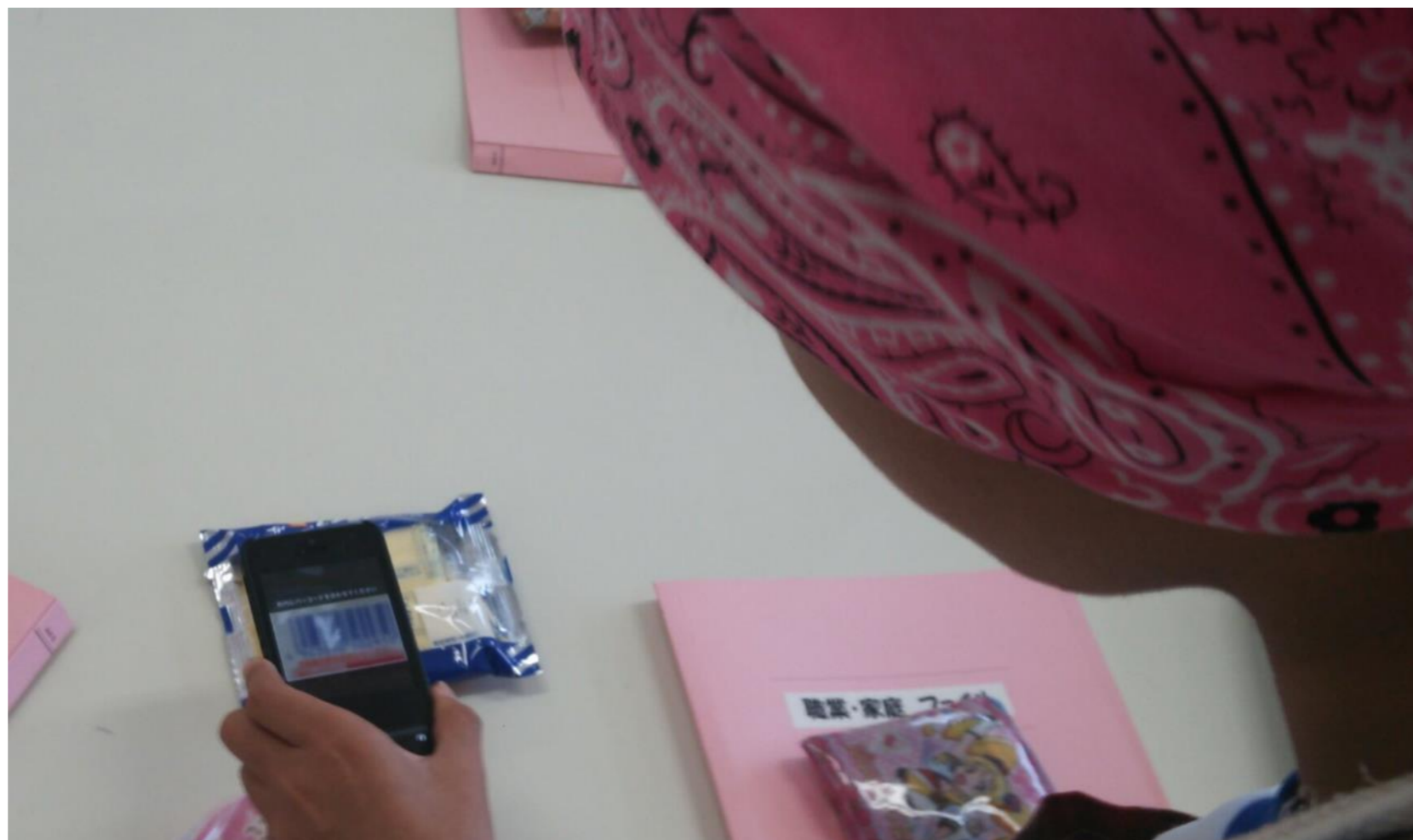
iPhone本体にメモを貼る



# ④アレルギーの対応： アレルゲン物質を「食べない」指導



アレルギーチェッカー

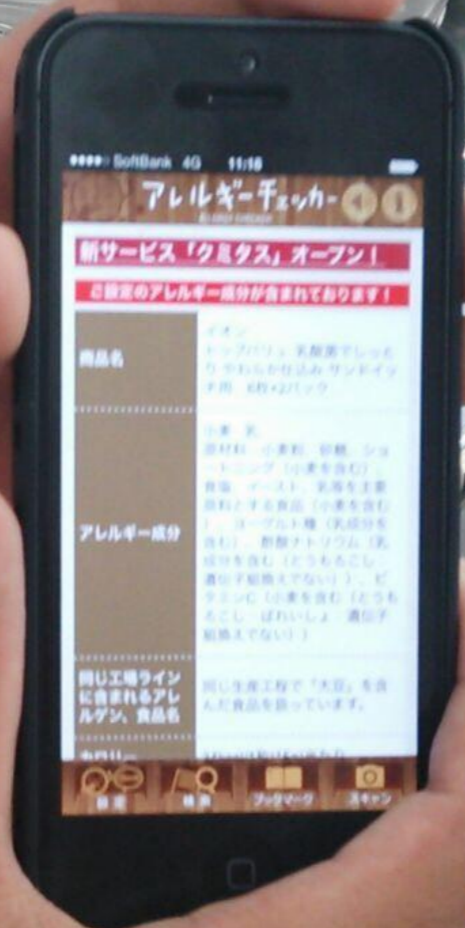


家庭科教員がまさかの買い間違え！  
牛乳入りのパンを準備

食べられるものだけを集めるのは  
「ヤラセ」!

※経験・体験の機会確保は配慮

乳製品ばかりの状況



これはチャンスでは？

ハムでハムをサンドする  
『ハムハムサンド』を本人が開発！

いいな～！



# ③「いつでも」「ずっと」使える力： 動画メモと動画マニュアル



My Photo HD

自分なりの「メモ」として  
活用  
↓  
必要に応じて撮影、  
すぐに見返す



# Aくんの動画(画像)コンテンツの使い分け



## 「主観的」視点

- 本人の視点(主観的視点)で撮影
- 本人が撮影、アプリで管理する
- メモ(備忘録)の役割

## 「客観的」視点

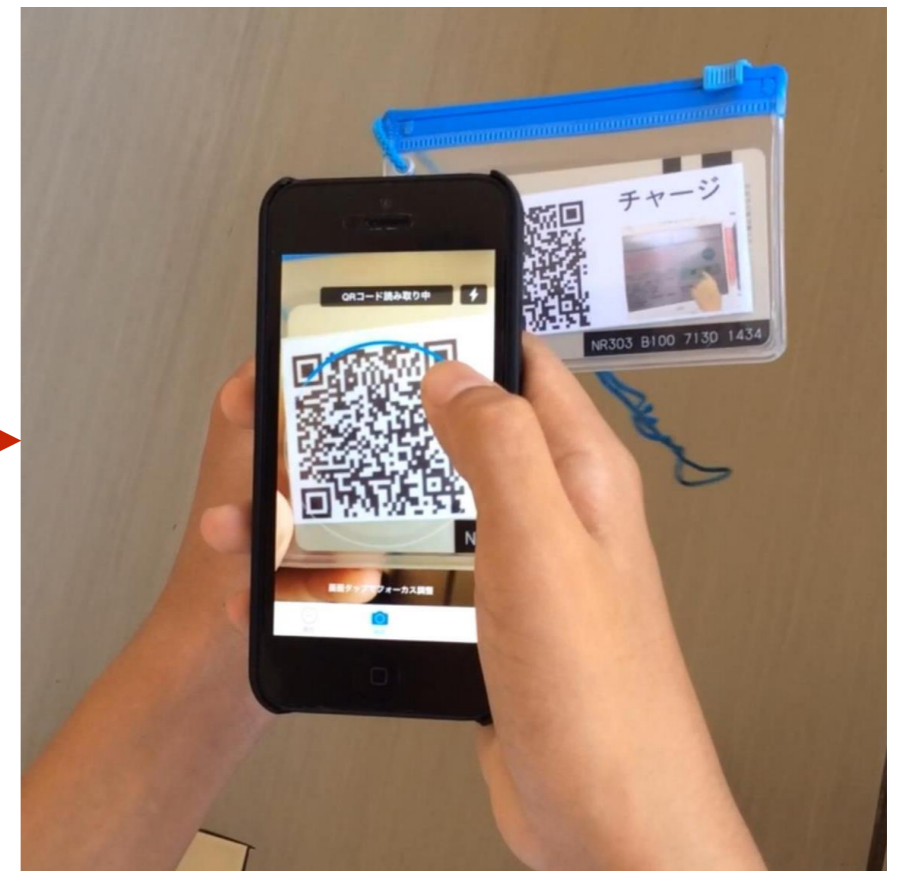
- 他人の視点(客観的視点)で撮影
- 教師が撮影、ネットで視聴する
- 教材としての役割(必要に応じて)

それぞれの役割で使い分ける



仕方が難しい・機会が少ない場合は動画…

例：バスカードのチャージの仕方



YouTubeチャンネルでQRコード化  
→必要に応じて見返して活用

# ④信頼できる友だち関係の形成： 自然な関わりから、信頼を学ぶ



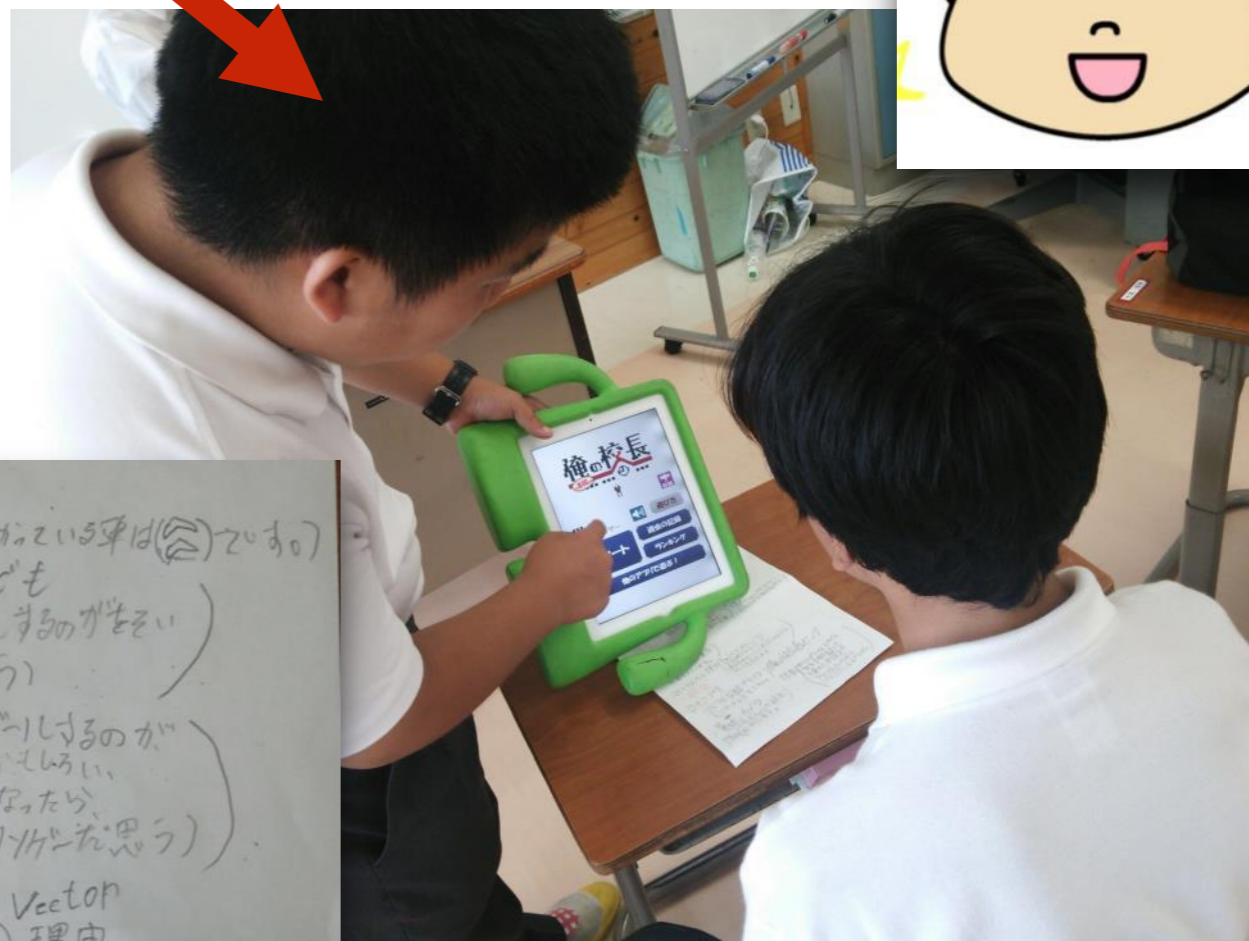
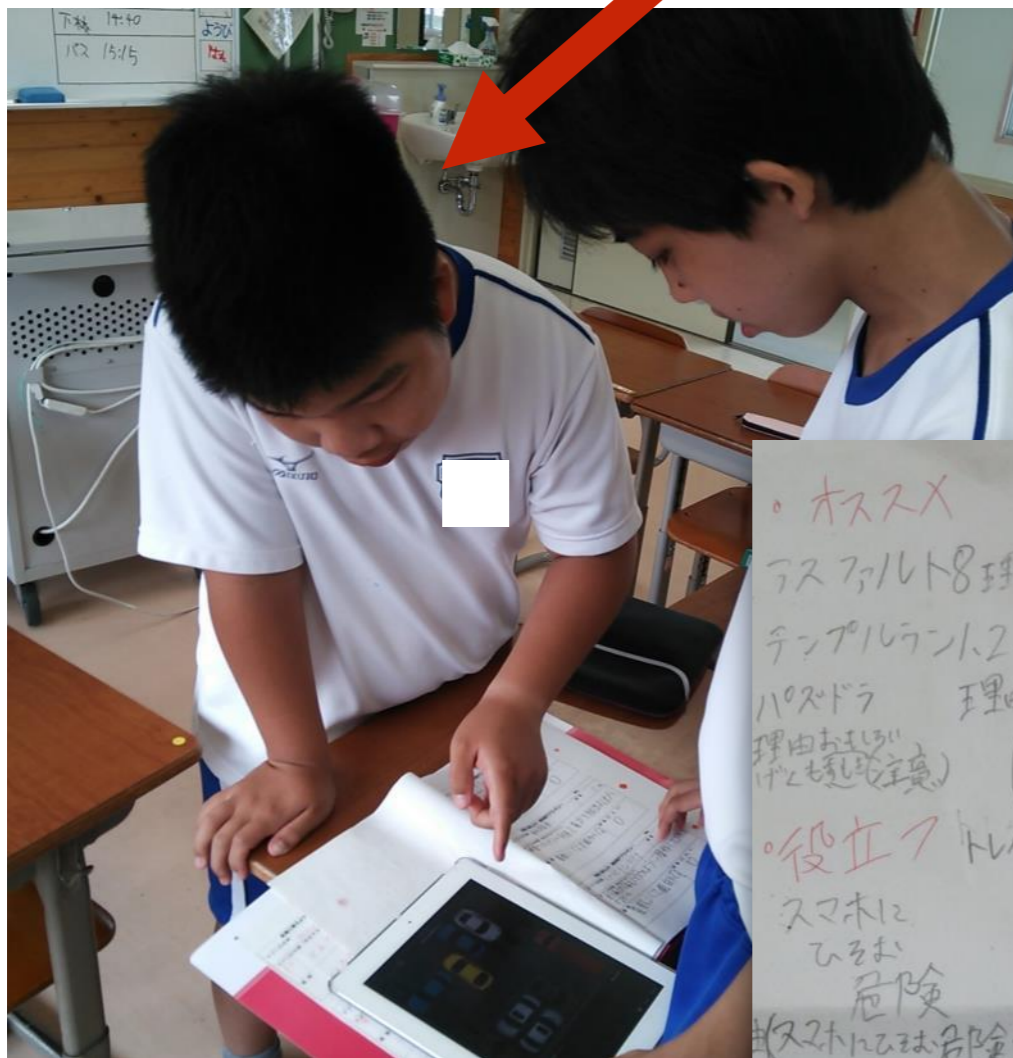
登校の仕方から  
スマホの使い方へ



同じ路線バスのE先輩が進んで教えてくれる



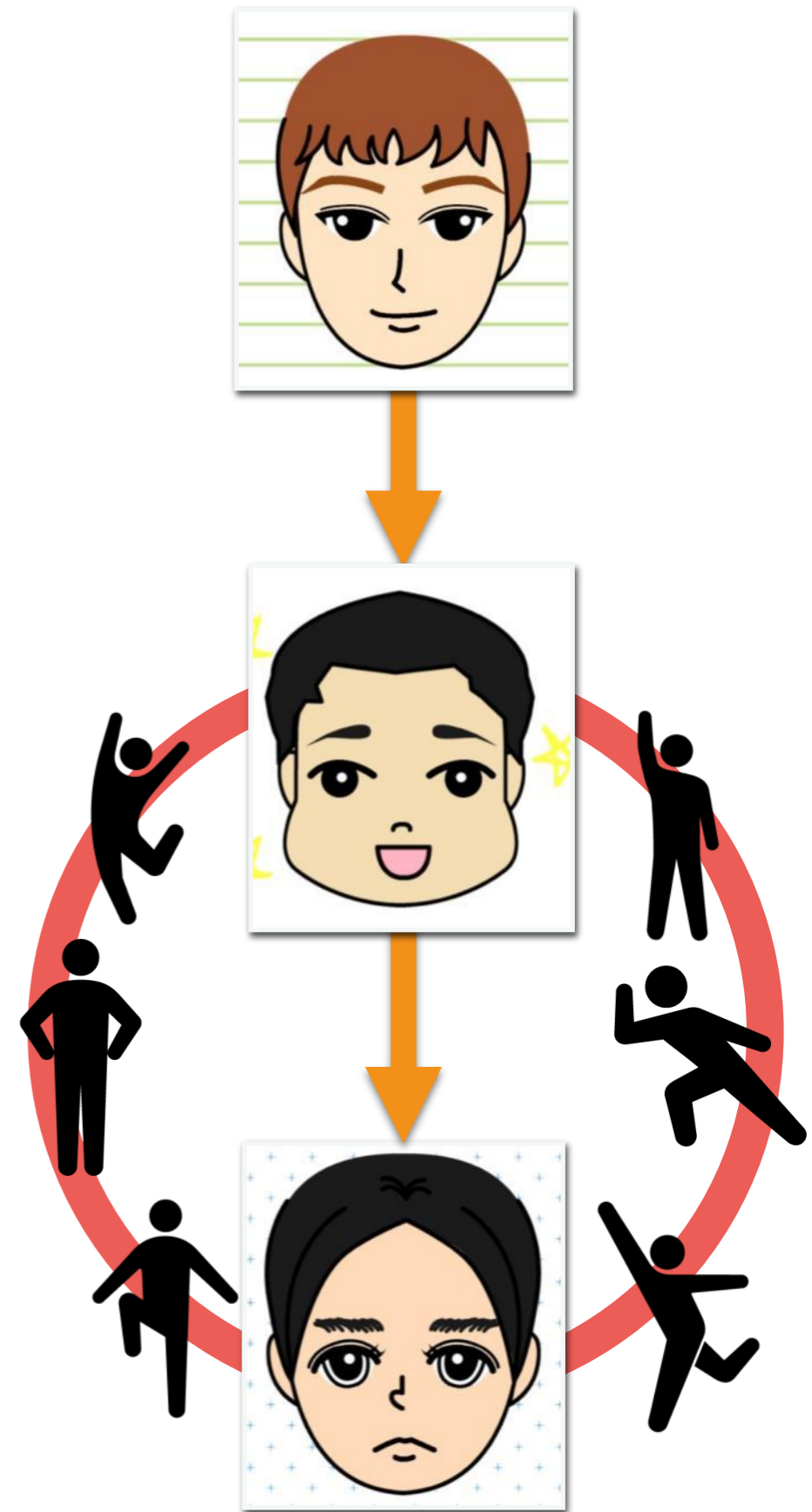
# 実は、E先輩はJくんに教わった生徒



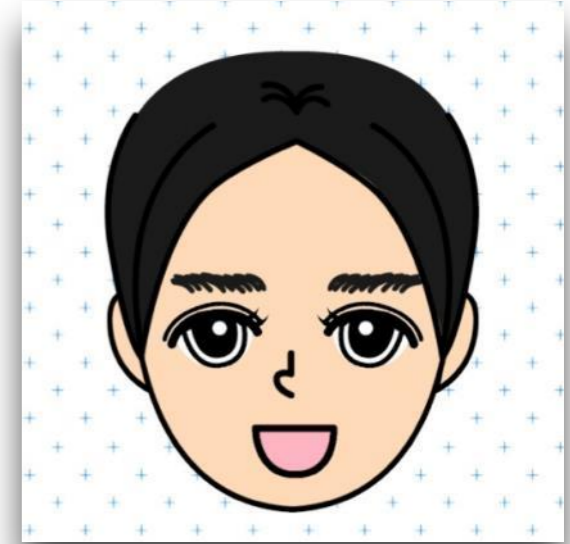
・オススX (ちなみに今からおている車は(空)です)  
ラスファルト8理由おもしろいけども  
インストールするのがきつい  
テンプレートラン、2. (おもしろい)  
理由、いつになったらインストールするのが  
わからないからおもしろい  
あと1000枚ほどになったら、  
速くなるはずがクソゲーと思う)  
・役立アプリ理由  
スマホに  
いるお  
危険  
(スマホにいた危険を)  
おしえてくれる。  
VFC9スクラ理由 (ちゅうぶにせにーし  
をほろけいてメールし  
きんちゅうにしいせてくれるから  
とてもオススX)  
・越々  
アプアオリ  
いろんなアプリがある) 俺の校長ビ  
(いろいろとおもしろい)  
理由 (例えばアイス  
をたのむと  
たまたま生徒とか  
がきておもしろい  
ハイスコアになるゲーム)

Jくんのレビューを真似た『おすすめリスト』を作ってくれた

# 教えと関わりの連鎖、コミュニティの形成



# 今後の方向性



## 買い物・自力移動について

- ・買い物できる店舗や乗車できる路線を増やす
- ・現時点では動画の撮影許可は教師が行なっている。  
本人が(周囲に不審がられず)行える手段の確保

## 自律的な生活の確立

- ・より実際に即した活用の工夫・整理
- ・緊急時の依存先の増加を図る
- ・関係諸機関との連携(実施中)